

2010年3月期第2四半期 決算説明会 および当社の中長期ビジョン



2009年12月11日
日本輸送機株式会社
代表取締役社長 裏辻 俊彦

空港向バッテリー式トローイングトラクター「NTF1800」

I 決算概要

1

前年同期比減収・減益

2

第2四半期(7月～9月)は営業利益が黒字に

3

2010年3月期は黒字化する見通し

1. 連結損益計算書の概要

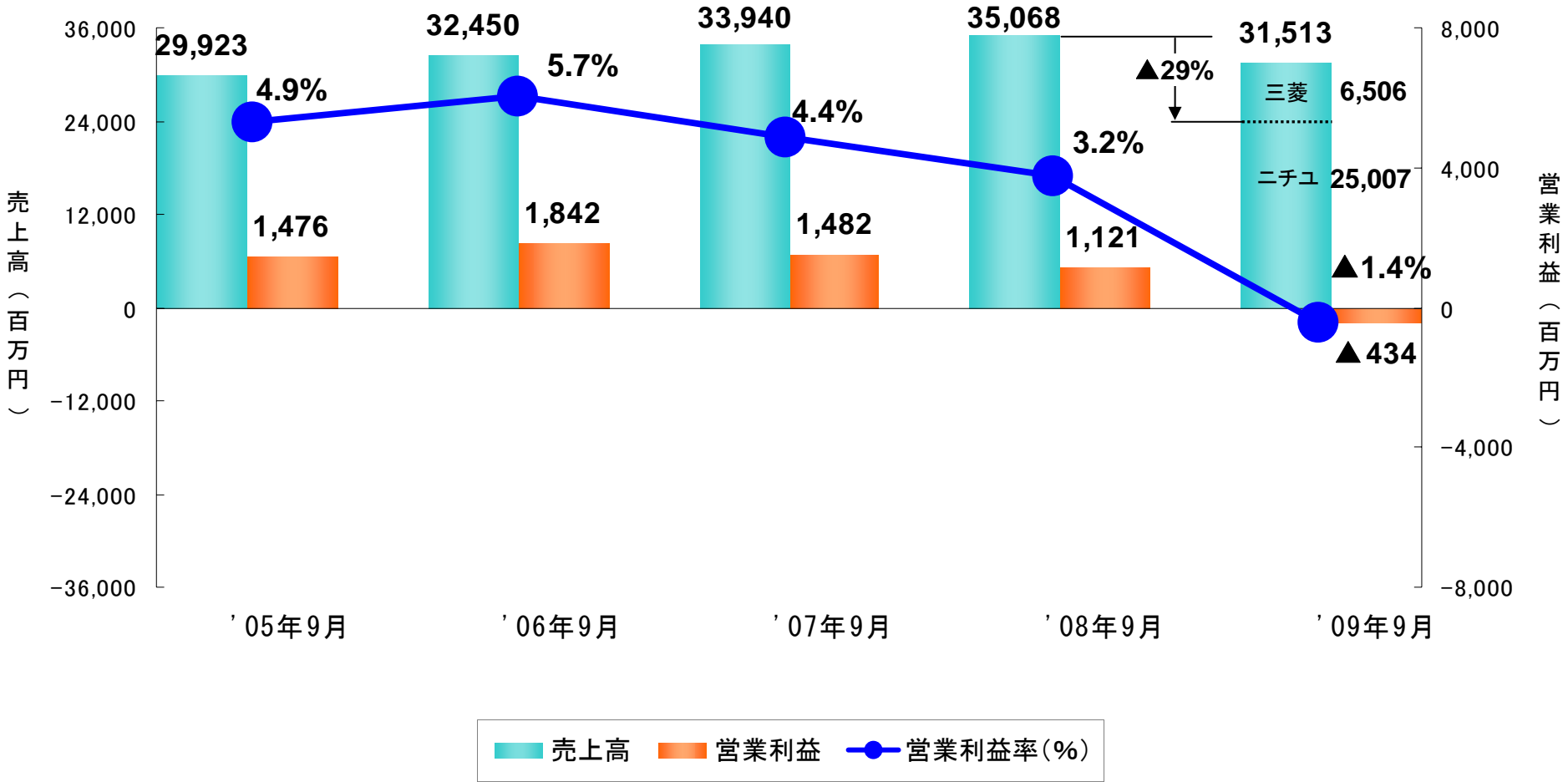
急速な事業環境悪化により10%の減収

単位:百万円

	2008年9月期	2009年9月期	前期比増減	
売上高	35,068	31,513	△3,555	△10.1%
営業利益 (営業利益率)	1,121 (3.2%)	△434 (△1.4%)	△1,555 (△4.6point)	△138.7%
経常利益 (経常利益率)	1,275 (3.6%)	△461 (△1.5%)	△1,736 (△5.1point)	△136.2%
当期純利益	641	△409	△1,050	△163.8%

2. 業績の推移

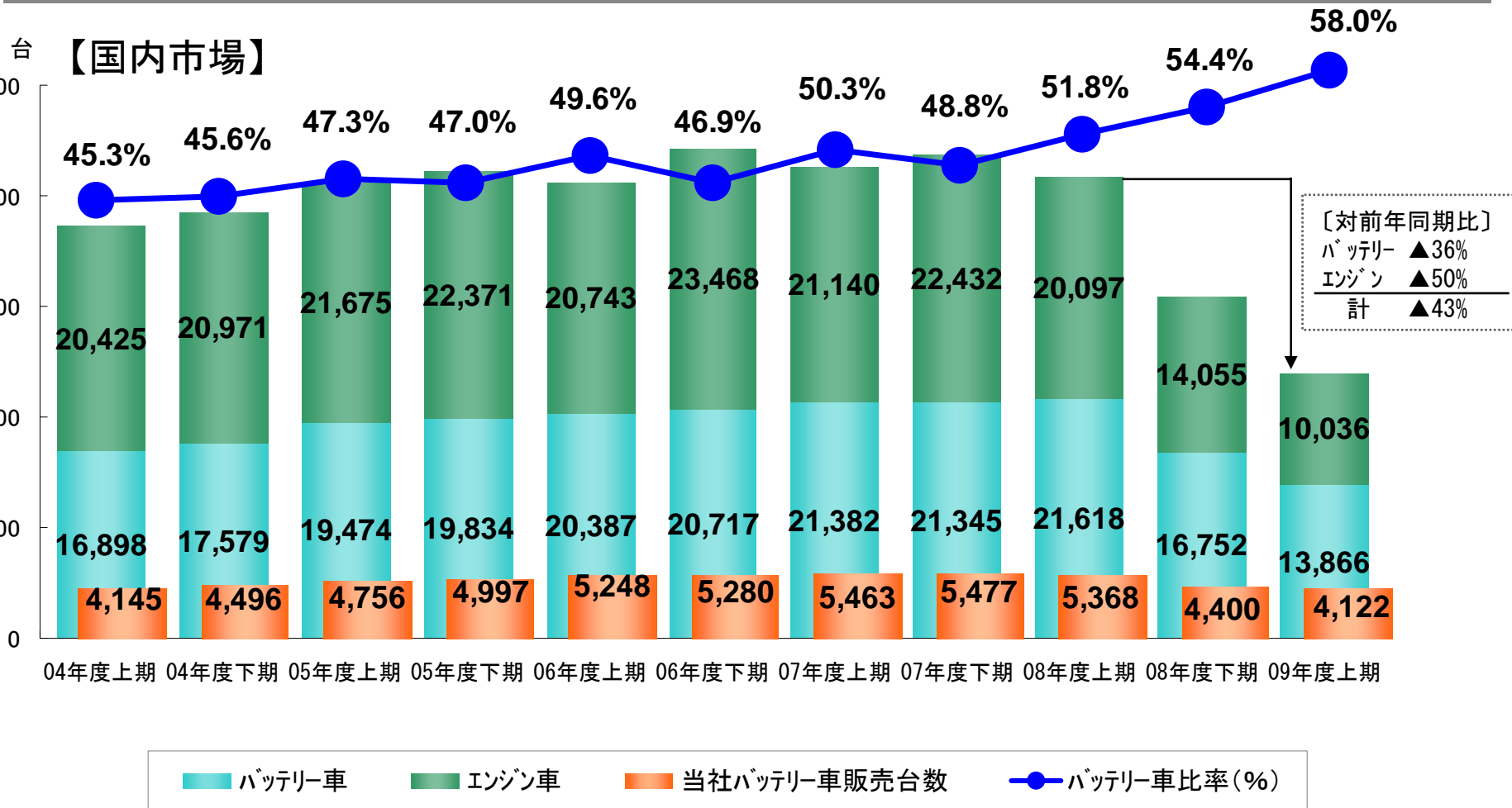
企業の設備投資大幅減少により営業利益が大きく減少



3. フォークリフト市場の動向



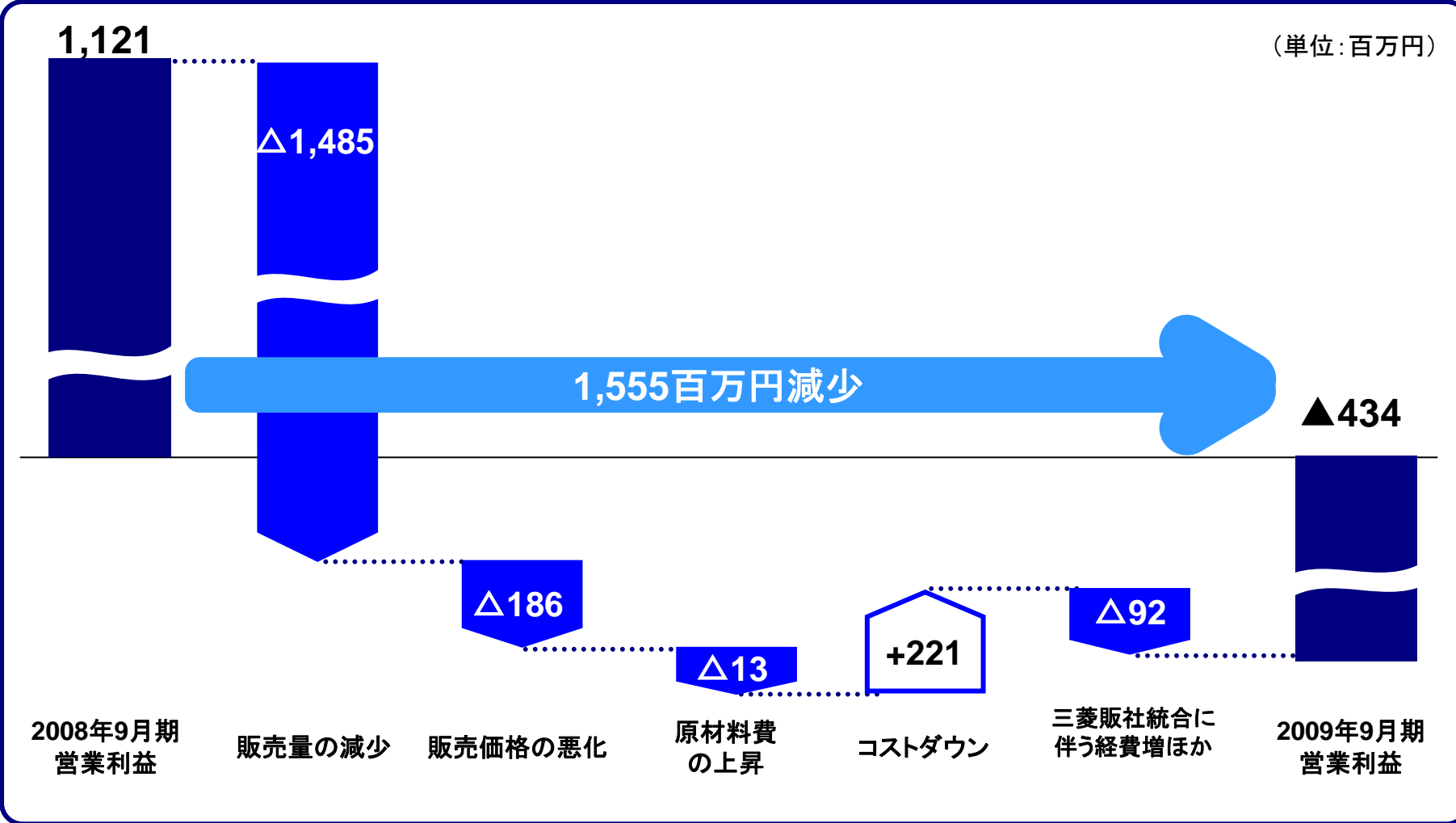
市場は大幅に減少するもバッテリー車比率が更に上昇



(日本産業車両協会調べ)

4. 営業利益の増減要因

販売量の大幅減少により営業利益が前期比1,555百万円減少

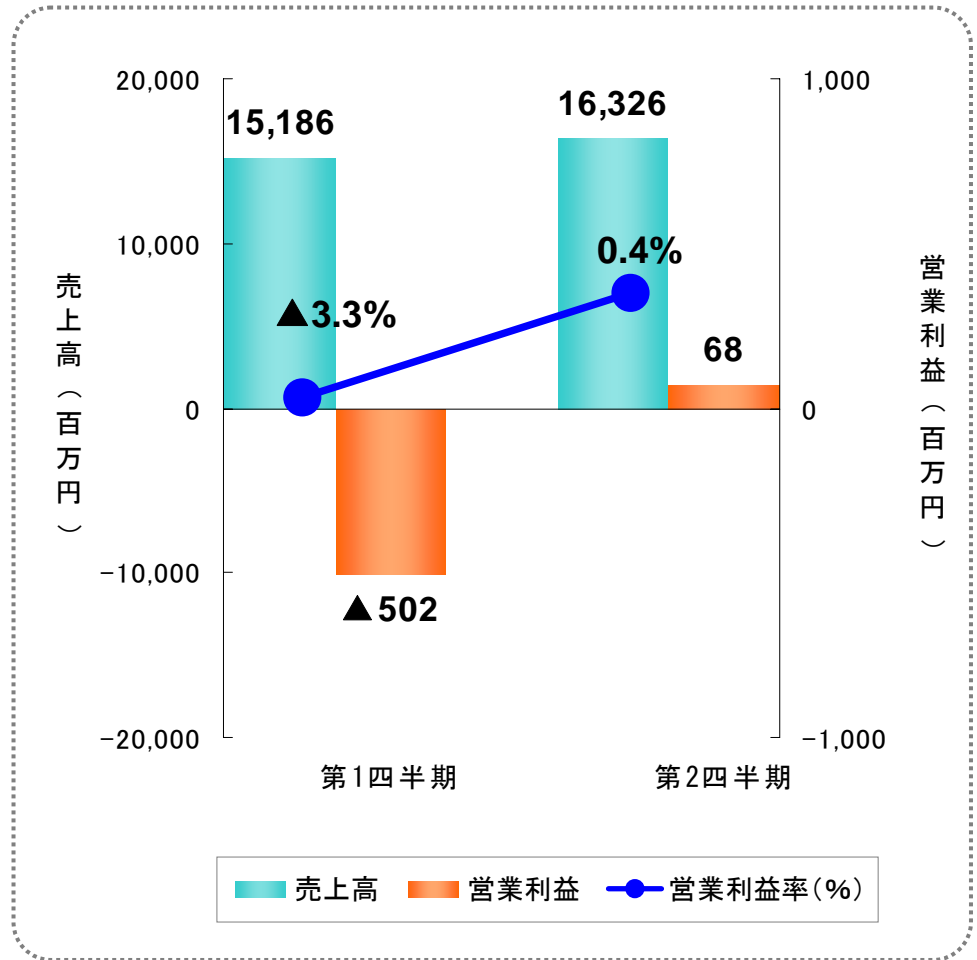


5. 業績の推移(2009年度)

第2四半期(7月~9月)は営業利益黒字化

単位: 百万円

	第1Q	第2Q
売上高	15,186	16,326
営業利益 (営業利益率)	△502 (△3.3%)	68 (0.4%)



6. 2010年3月期通期業績見通し



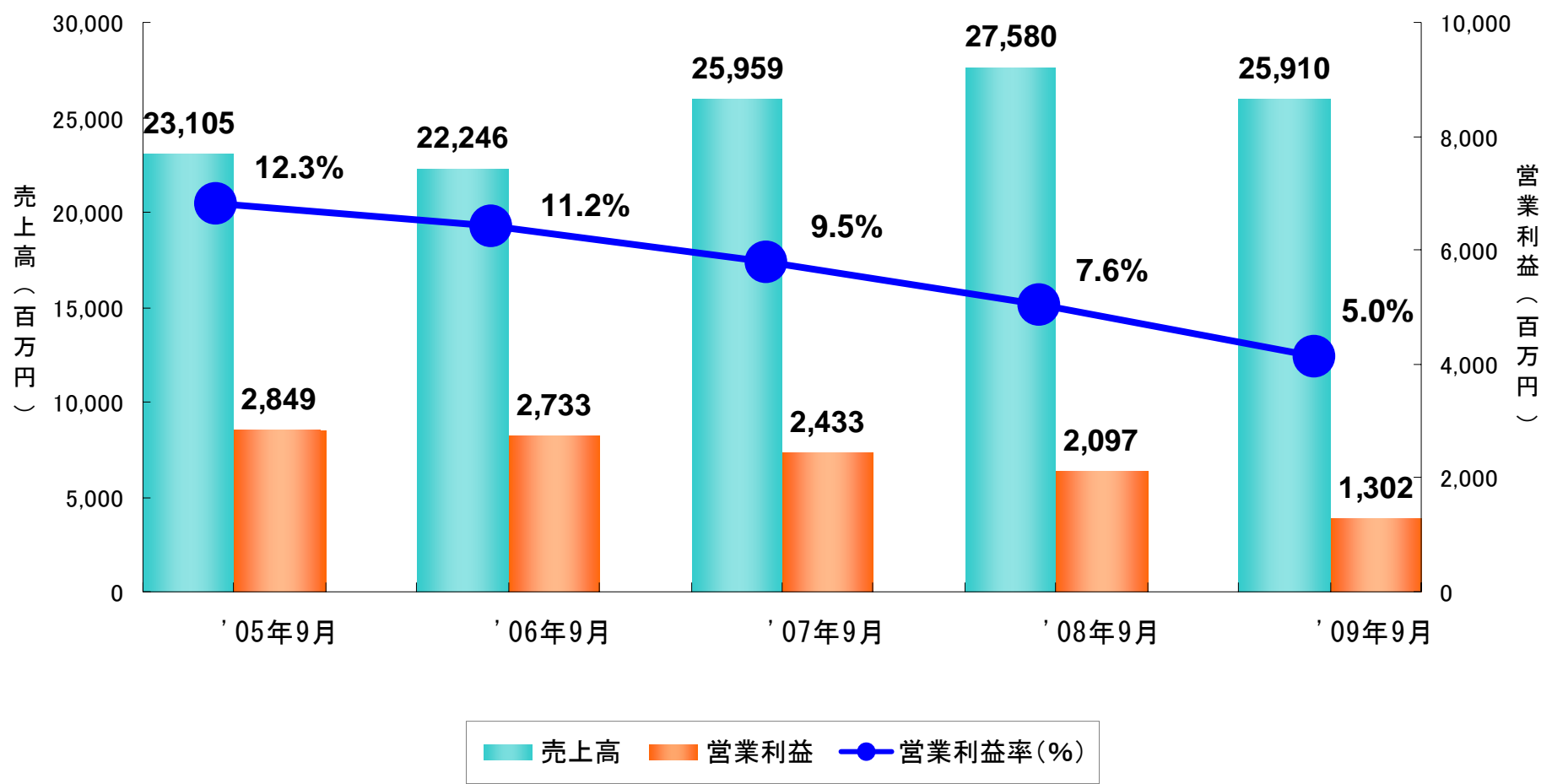
(単位:百万円)

	2009年度上期 実績	2009年度下期 予想	2010年3月期 予想
売上高	31,513	35,487	67,000
産業車両部門	25,910	28,940	54,850
物流システム部門	4,545	5,635	10,180
その他部門	1,057	913	1,970
営業利益	△434	+1,288※ 854	420
営業利益率	△1.4%	2.4%	0.6%
経常利益	△461	761	300
経常利益率	△1.5%	2.1%	0.4%
当期純利益	△409	409	0
設備投資額	1,113	1,937	3,050
減価償却費	1,539	1,411	2,950

※前提条件:上期実績(△434百万円)と比較して、売上高増加により+720百万円、コスト削減により+100百万円、人件費・諸経費削減により+190百万円、海外+140百万円、その他+140百万円 計+1,290百万円の見込み

7. セグメント別業績(産業車両部門)

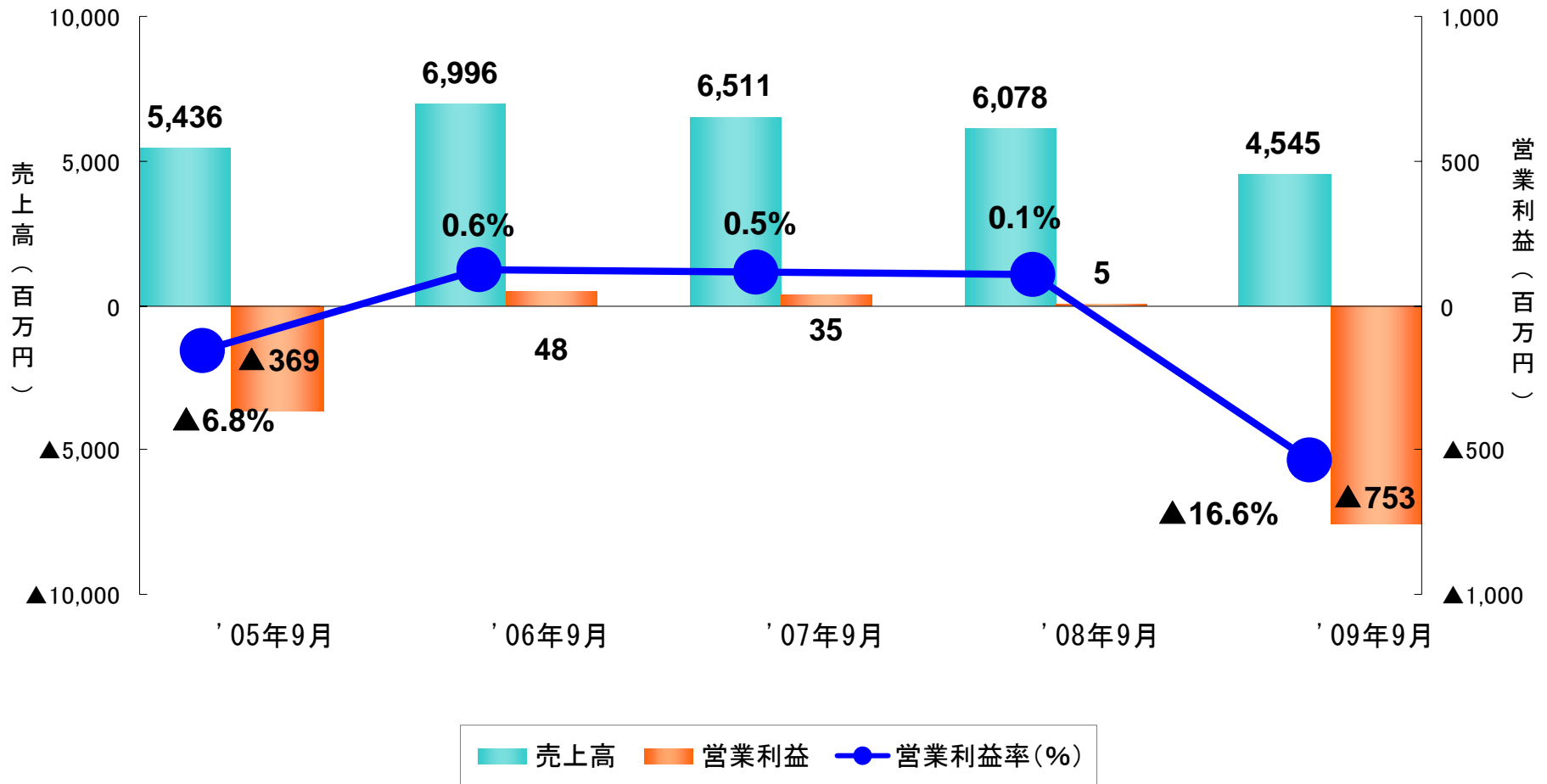
産業車両部門は逆境下にも利益確保



8. セグメント別業績(物流システム部門)



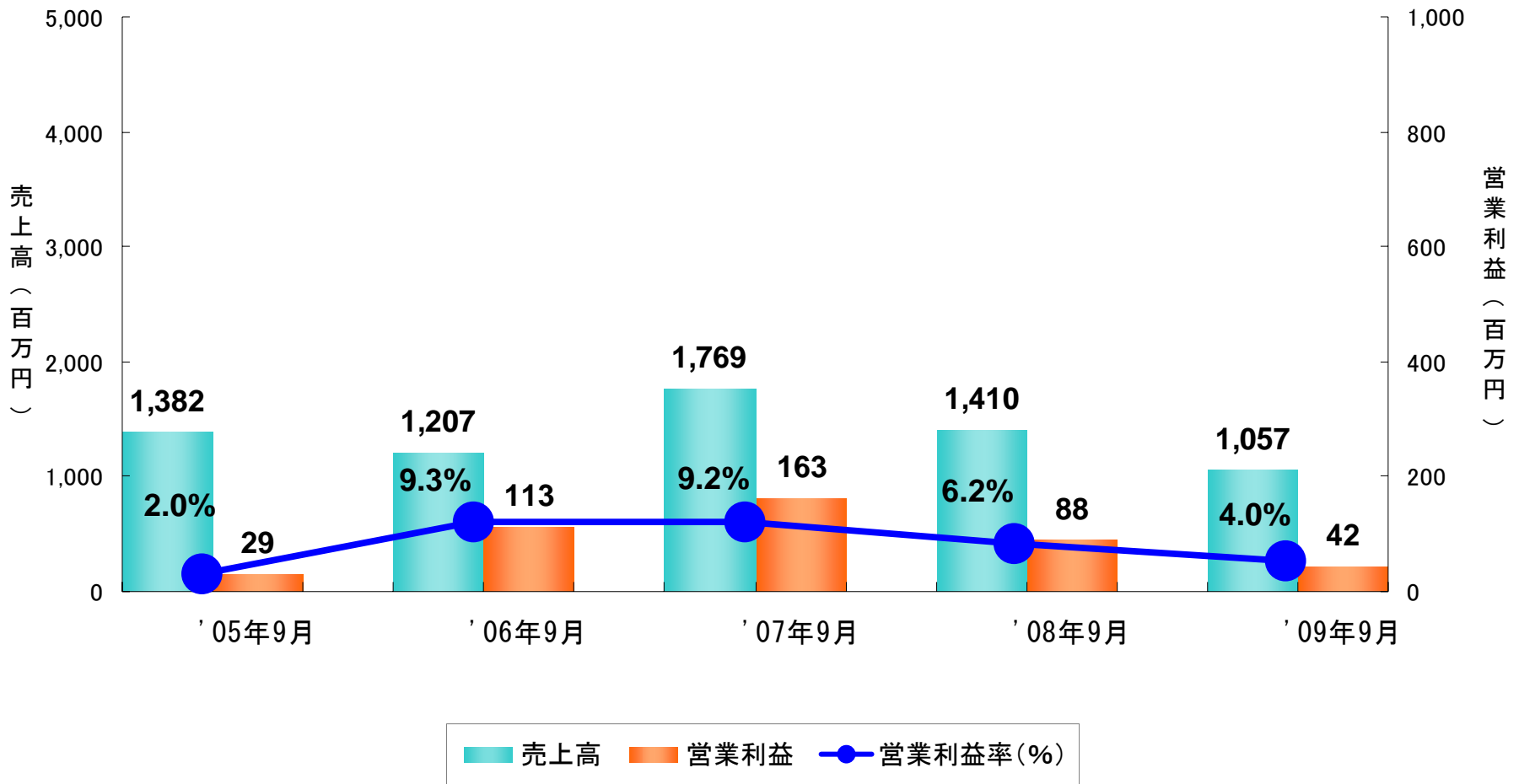
企業の投資抑制により営業損失となる



9. セグメント別業績(その他部門)



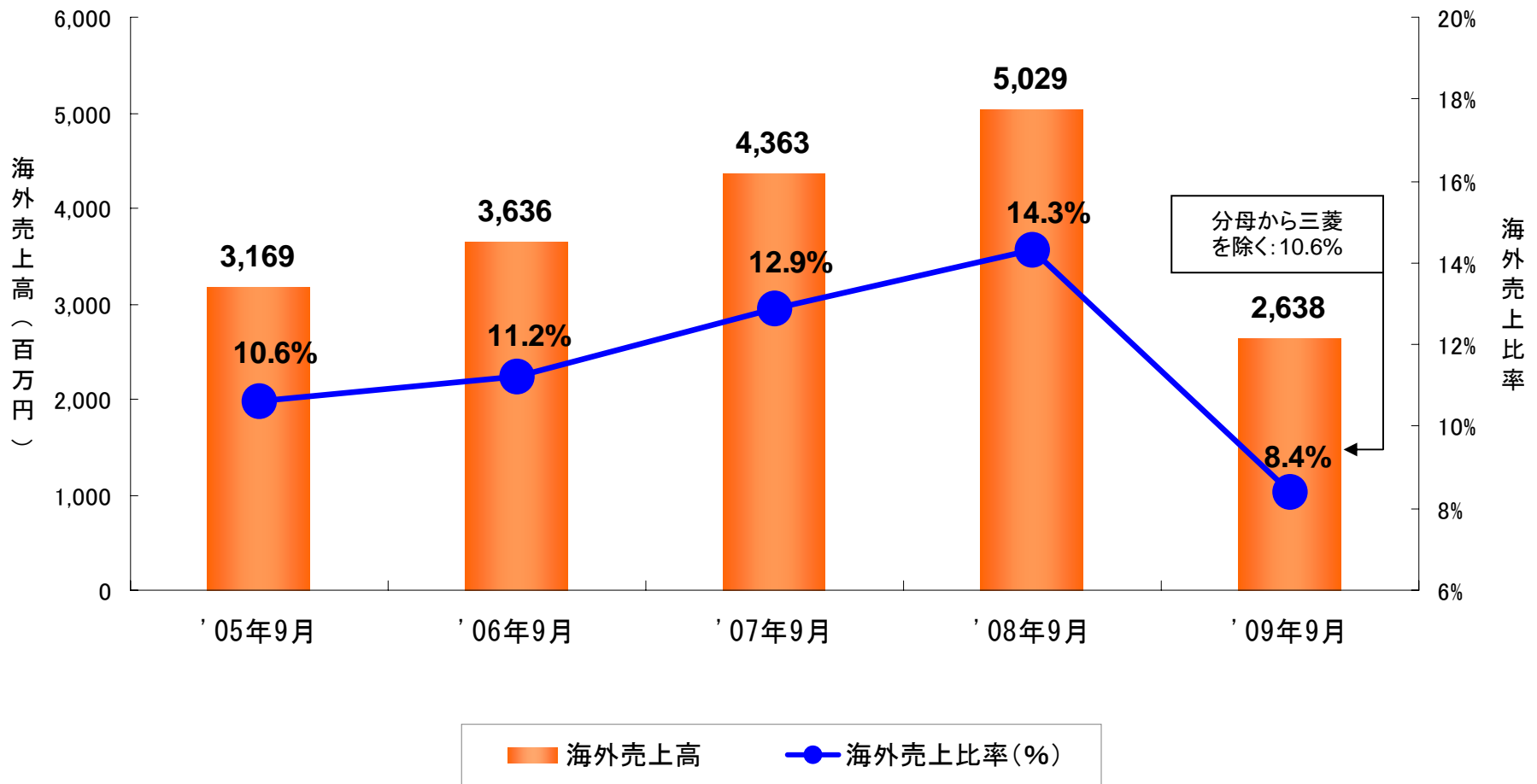
主力の巻取機の受注キャンセルなどにより前期比減収・減益



10. 海外売上高の推移

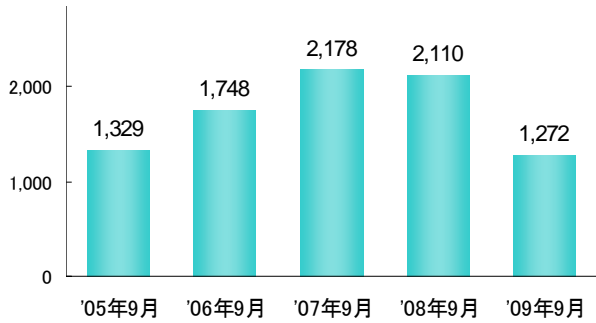


海外売上減少ならびに販売会社統合により海外売上比率減少

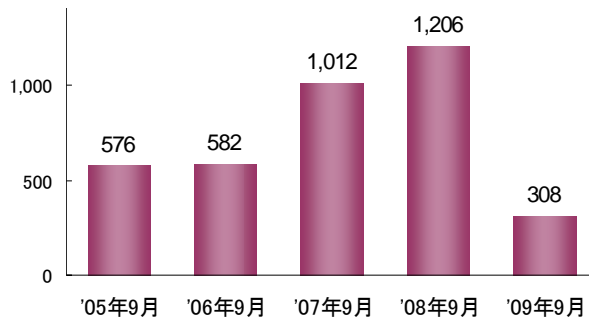


11. 海外地域別売上高の推移

東アジア



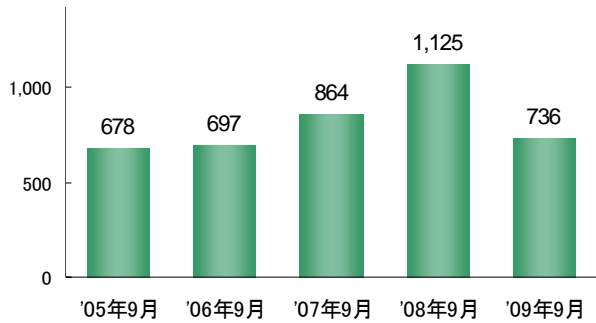
ヨーロッパ



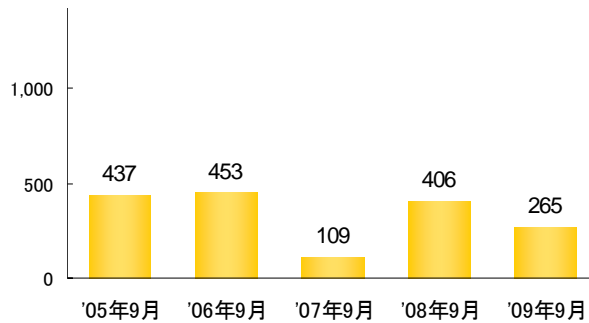
主要国での日本車内シェア

	'08年 1月～9月	'09年 1月～9月
中国	30.8%	36.2%
東南アジア	28.9%	21.1%
豪州	27.4%	39.8%

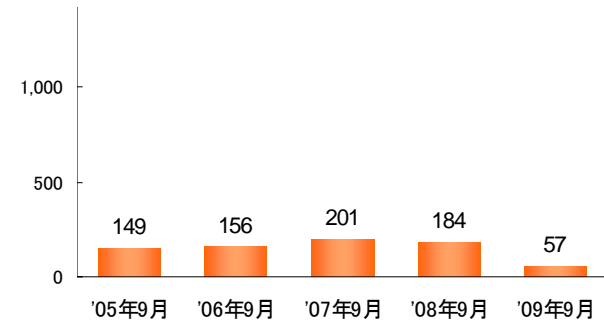
東南アジア



オセアニア



その他



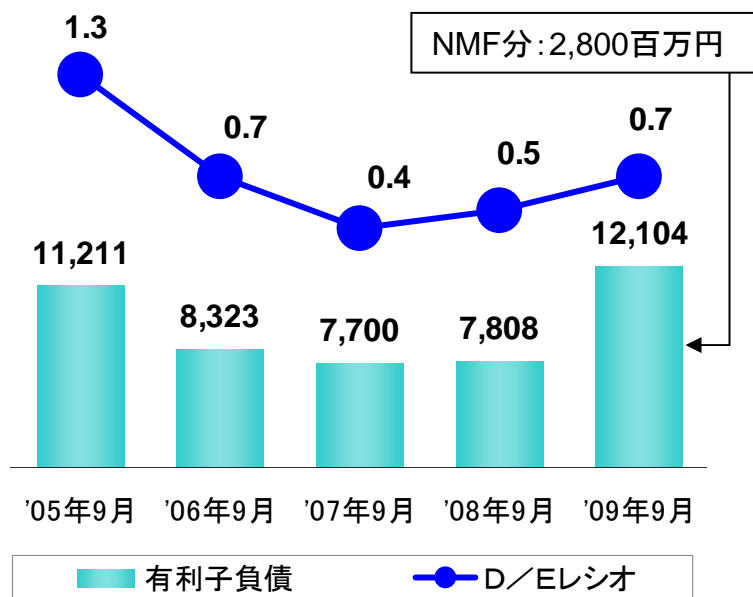
12. 有利子負債・自己資本



自己資本比率は減少

有利子負債・D/Eレシオ

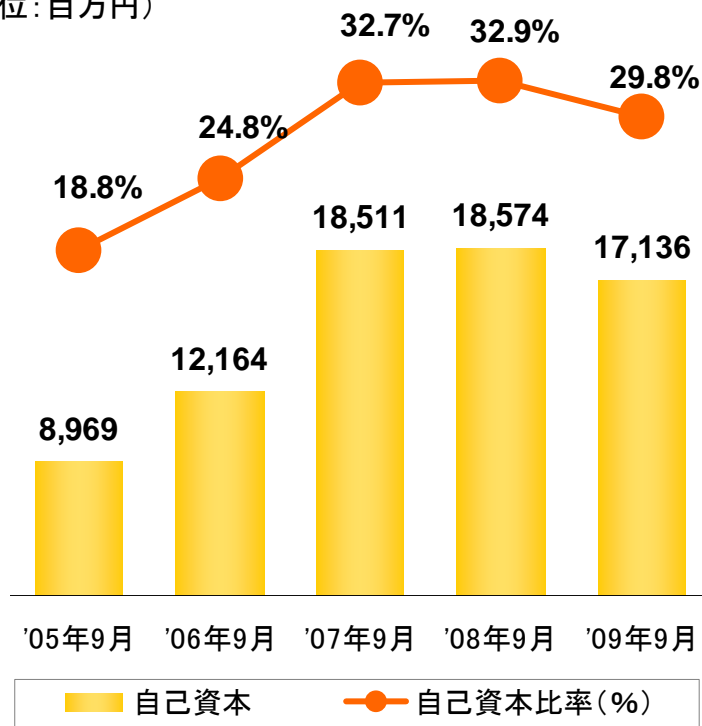
(単位:百万円)



※NMF=ニチユMHIフォークリフ(株)

自己資本・自己資本比率

(単位:百万円)



13. 連結キャッシュフロー計算書の概要



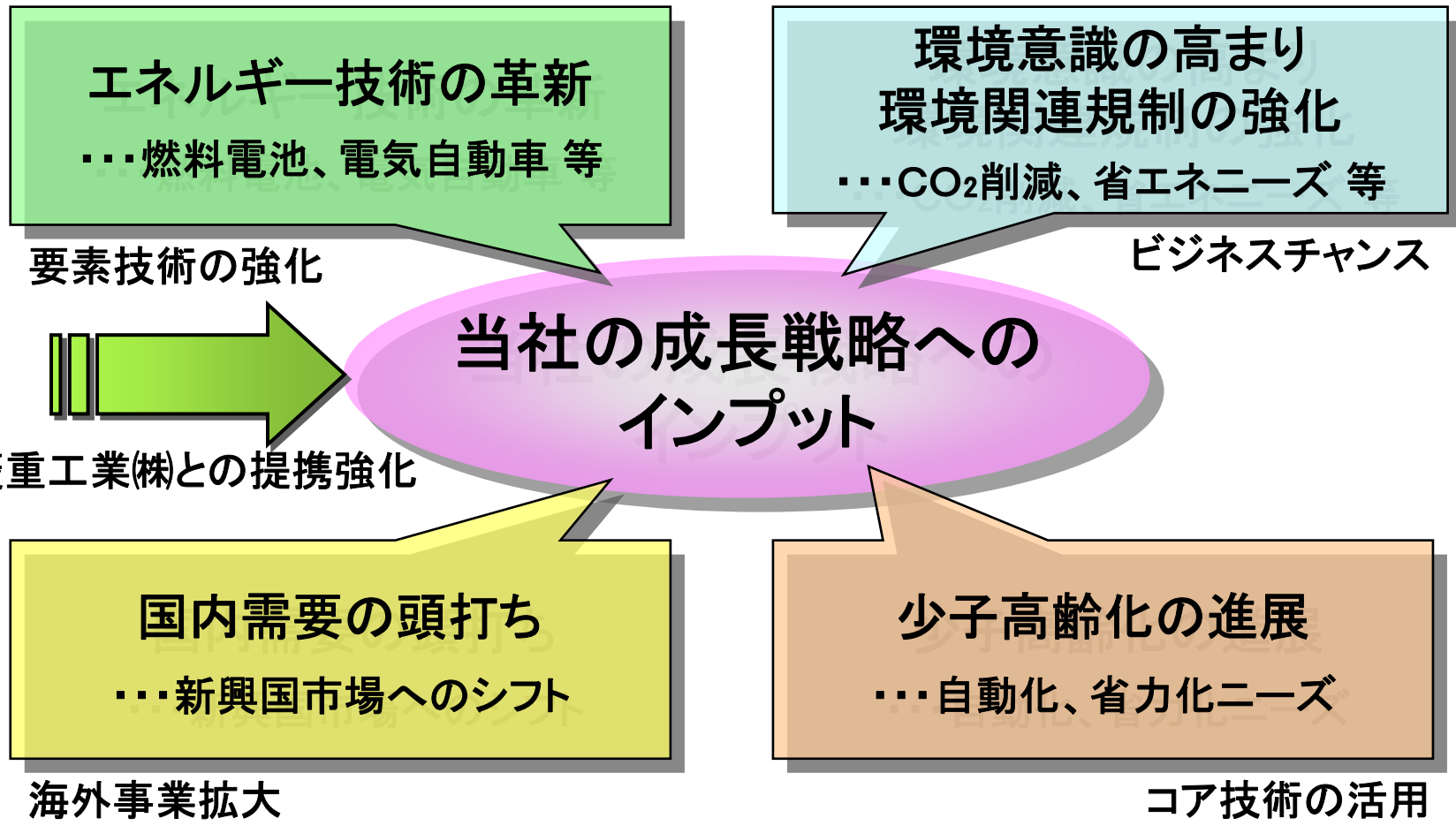
営業キャッシュフローは横ばい、投資を抑制

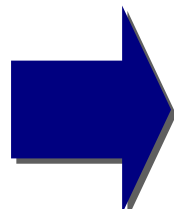
単位:百万円

	2008年9月期	2009年9月期	前期比増減
営業活動による キャッシュフロー	1,721	1,653	△68
投資活動による キャッシュフロー	△1,096	△503	+593
フリー キャッシュフロー	625	1,150	+525
財務活動による キャッシュフロー	△587	326	+913

Ⅱ 当社の中長期ビジョン

1. 事業環境

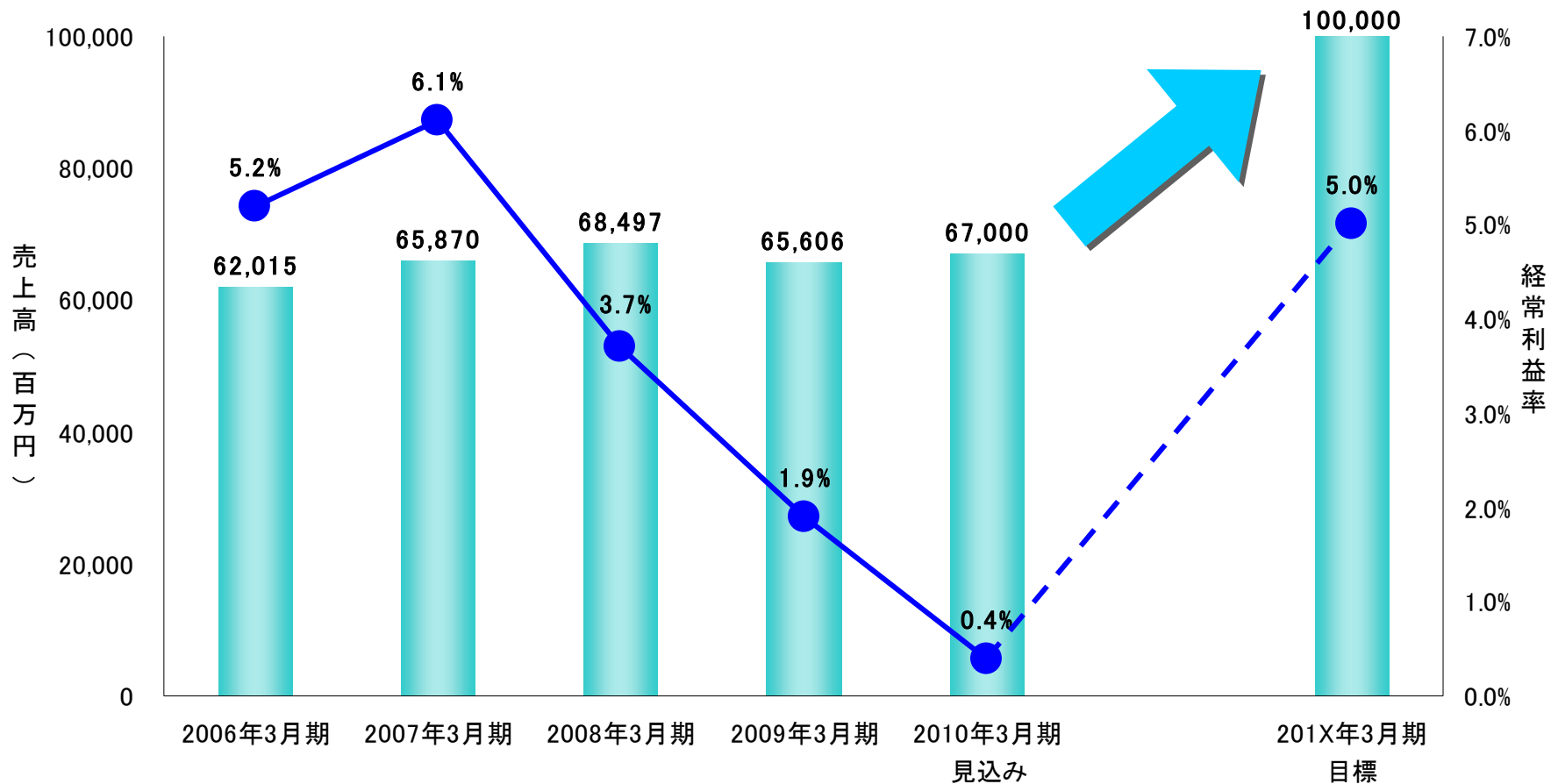


 三菱重工業(株)との提携強化を背景に、
当社の強みを最大限に発揮して事業環境の変化に対応

2. 業績推移と目標

事業環境の変化に対応し、さらなる成長を実現

- 三菱重工業(株)との協業や海外へのシフト化を軸に戦略展開
- 全ての事業での黒字化を目指した総コスト低減活動の推進

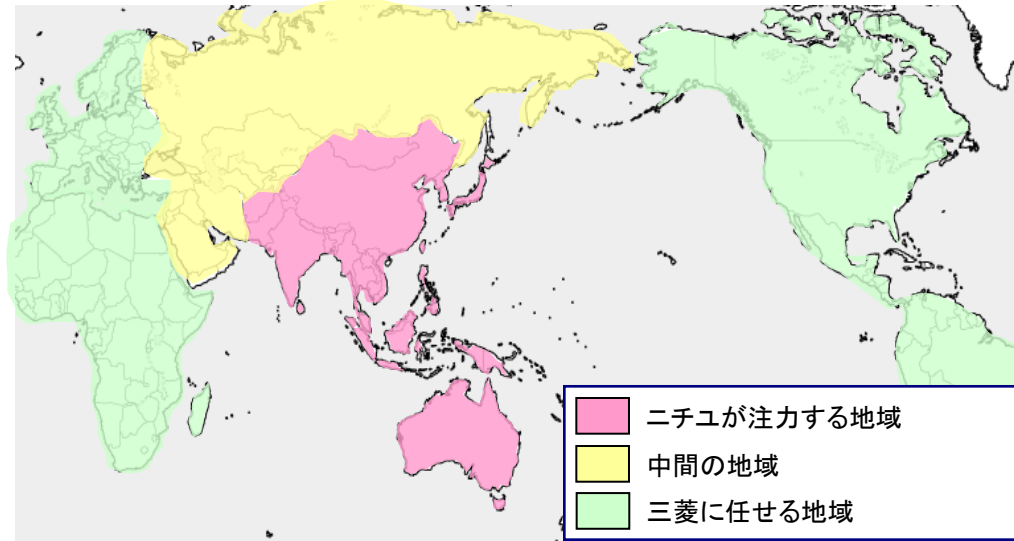
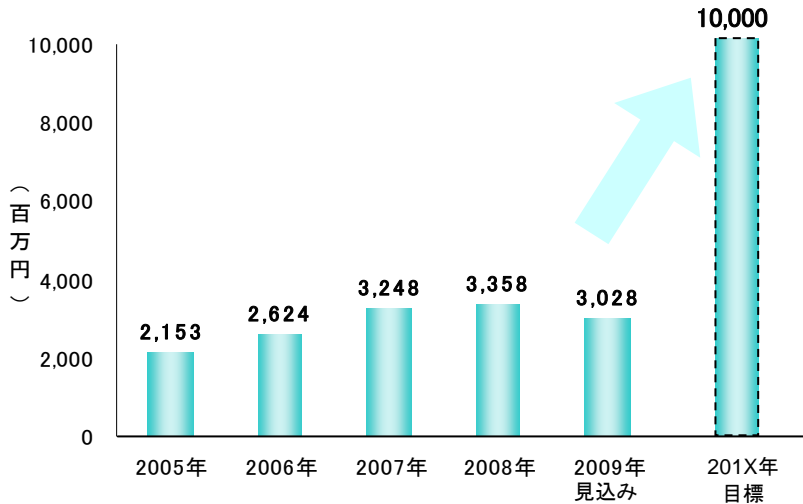


3. 海外事業の拡大

新興国市場へのシフト

201X年 中国市場での売上高100億円へ

三菱重工業(株)と海外市場における棲み分けを行い、当社は中国を始めとする新興国に注力する。



世界戦略商品の投入



- 三菱重工業(株)と世界戦略車を共同開発し、欧州、東南アジア、米国向けに販売。(OEM含む)
- 屋内物流機器の品揃え強化。
- コンポーネント事業の拡大。

海外生産の拡大



- 上海製造現法のフル活用による生産増大。
- 三菱重工業(株)との生産の棲み分け。

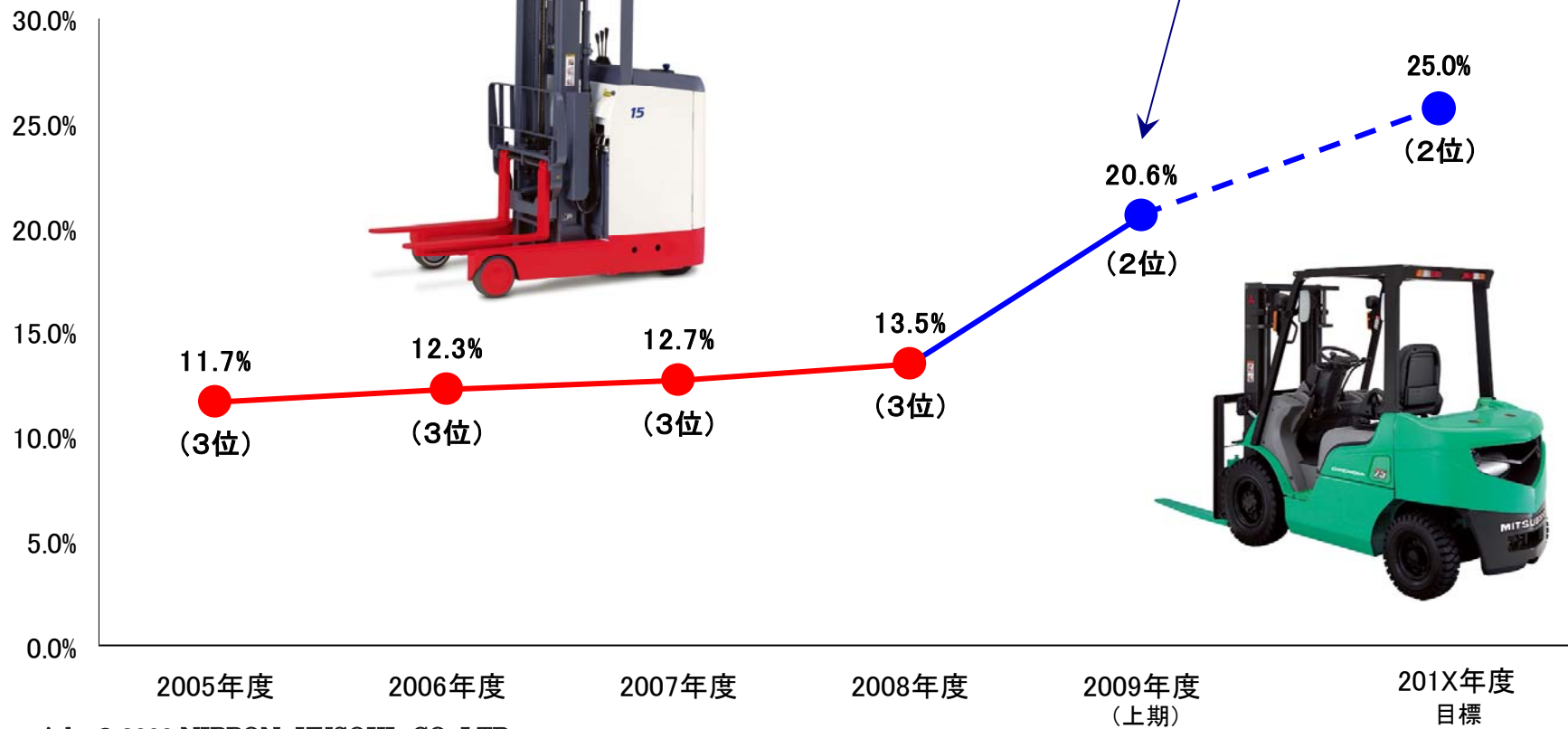
4. 国内販売(産業車両部門)の拡大

国内フォークリフトシェア第2位の座を不動のものに

当社シェア推移

- 当社販売は電気車のみ
- " 電気車+エンジン車
- ()内は当社の国内シェアランク
(社)日本産業車両協会調べ

2009年4月の三菱重エフォークリフト販売(株)との国内販社統合でエンジン車が商品群に加わったことにより顧客層が拡がり、2009年度上期には国内フォークリフトシェア20%超を達成した。



5. 物流システム事業の損益改善

中型無人搬送車を軸としたソリューション／エンジニアリング力を強化

- 当社の充実した国内販売網の活用と三菱系企業への拡販強化
- 売上高と投入資源のバランス最適化



注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

お問い合わせ先

日本輸送機株式会社
総務課 山崎、小泉

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1
TEL:075-951-7171 FAX:075-955-3797
<http://www.nichiyunet.co.jp>